

2023年度第1回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会 議事要旨

- 【日 時】 2023年10月6日（金）午後6時00分～午後7時45分
【場 所】 町田市庁舎5階 5-3会議室
【出席者】 委 員：松波委員（委員長）、奥委員（職務代理）、斉藤崇委員、
戸村委員、屋委員、斎藤之良委員、土肥委員、山本委員
事務局：町田市環境資源部 塩澤
環境政策課 池澤、高橋、土志田、田村、島田、杉山
コンサルタント：アオイ環境株式会社
【欠席者】 齋藤栞帆委員
【傍聴者】 な し

議題

1 2023年度 外部評価の進行について（報告）

- 事務局から、説明を行った。

質疑なし

2 2022年度外部評価意見への対応について

- 事務局から、説明を行った。

土肥委員：グリーン購入達成率で、いつまでに終わらせていつまでに反映させる、アクションを始める等が明確でないと計画ができたといえない。今回の説明では、そこまで確認できなかったが、これについて、計画など何かあるか。

事務局：グリーン購入の非適合品を購入する際の仕組みとして、必ずシステムで理由を記載することと、購入を決裁する管理職が確認する形に変更した。ヒアリングについては、好事例を確認して紹介することで、庁内に活かしていただきたいという趣旨になる。

土肥委員：非適合時はシステムに理由を入れる様にし、逐次ヒアリングをかねてやる仕組みにした。今後は適宜ルールができていくというのが、アクション。これはアクションしたと堂々と言っていいと思う。次に、グリーン購入カタログを導入するということだが、当然、紙のカタログではなく、電子データのものになるのか。

事務局：カタログを実際に導入し、どういう形で運用できるかも含め、まだ検討段階である。

土肥委員：ウェブ研修や動画研修は、いま働いている人については100%受講するこ

とが目標となる。休職中や出向中等で対象外の人がいることは承知の上でこの後の報告につなげて欲しい。

環境法令については、設備問題で2～3年では解決できないものは計画を立てるように話したが、2023年は頑張っている。何かチェンジングポイントがあったのか。

事務局：環境法令対応については、各部署にしっかりヒアリングし、現地も確認しながら進めていった。予算が必要なものもあったが、それも含めて対応が可能であると確認している。また、調査回数を増やしたことにより、それぞれの職場で意識が高まり、減ったということが考えられる。

土肥委員：当時は設備問題で難しいと言っていたことも、よく調査したら2年はかかるが達成できそうな内容で、予算も組める範囲だったということか。

事務局：すべてに予算がかかるわけではなく、意識だけで変わるものもある。昨年説明した工事が必要なものについては、すぐには厳しいということも確認し、予算を取ることでより解消している。予算も重要だが、意識がだいぶ変わってきたということが考えられる。

土肥委員：よく見たら意識問題だったというのが一つ。予算問題もあったが、そこは確認して予算を取り実行したのが一つ。全部が難しかったわけではなく計画的にできる範囲で努力したということで、理解した。

奥委員：(2)の資源について、その他に書かれているものが何なのかを知りたい。組成分析で数字は把握されているとのことだが、結果として、その他に含まれるものについて情報やデータがないのか。その上でさらに再資源化、再利用が図られるものがないかを見極めていただく必要がある、という趣旨の意見だった。方向性として示されている内容では、この意見に対して十分ではないようだ。

事務局：今までやっていなかった組成分析を始めた。資料にある通り、紙のリサイクルはやっているが、それ以外のものについてもやはり紙類が多いということは調査している。その他の産廃については、段階的な対応を考えており、今回は組成分析まで行っていない。今回いただいた意見については、今後の課題とさせてほしい。

奥委員：承知した。

松波委員：一部問題のあるところもあるが、今後の課題ということで、基本的に前回の評価意見に対応いただいていると理解している。

3 2022年度町田市環境マネジメントシステム実績報告書について

(1) 実績報告書について

- 事務局から、説明を行った。

(2) 評価基準について

- コンサルタントから、説明を行った。

土肥委員：評価基準について、更新することは同意である。(5) エコオフィス活動（施設担当部署）の目標について、最終的に5がどこを狙うのか。目標を95%としていると、実施率も毎年95%となってしまうと考えられるため、目標の数字はこれでいいのか。

コンサル：今回の評価基準について、(3) から (5) の内容については変更していない。第5次環境配慮行動計画で、温室効果ガス及びエネルギーに関する目標と資源に関する目標を変更したため、まずこの2つの評価基準を目標に合わせて変更した。現在の取り組みとして、(3) から (5) に関しては前年度と同じ評価基準を設けている。

土肥委員：町田市に質問がある。グリーン購入などは95%がゴールで大丈夫か。目標に達成したら努力する必要がない、これ以上活動しない、という考えか。

事務局：まず一つ目。(3) から (5) は以前から同じで、経年変化が見られるということで、今回新しく仕様は設定していない。もう一つ、95%だから100%を目標にしないのかという話があったが、(3) のグリーン購入については100%を目指さないといけないと考えている。今回(3) から(5)に限っては、全計画からの経年変化を見たいという観点から、評価基準を変えずにおきたいと考えている。

土肥委員：95%以上だったら満足、合格点という認識でいいのか。

事務局：今回は変更しないが、必ずしも見直さないというわけではない。正直、ゴールは全部100%だと思っている。全体的に目指す値を変えていくところもあるかと思うが、今回は新しく第5次環境配慮行動計画に変わったことから、新しい項目以外は前回の目標を継続して設定していきたいと考えている。

土肥委員：私の意見と合意が見られた。第5次環境配慮行動計画にいたっては、95%が及第点、この先、第6次計画や世情をみて98%がゴールじゃなきゃダメだとなったら、その時に見直しするというのでよいか。

事務局：はい。

土肥委員：他にも気になったところはいくつかある。エコオフィスサポーターというのは、普通の業務をやりながら共通業務でやっているのか。

事務局：はい、その通りである。

土肥委員：次に6ページのグリーン購入の原因は、意識ということでもいいか。また、詳細を見ると妙なところの達成率が低い。学校は達成率が低いけど寄与度が高い。たくさんものを買っているのではないかと気になる。寄与度という見方で、横に資料をつけていただくと二次元的に見られるかと思う。

奥委員：6ページのグリーン購入達成率について、学校の達成状況が良くないという議論はしてきた。それは、学校で購入する物品の特殊性もあるし、一定の品質、機能となるとグリーン購入の対象商品にならないという理由で説明いただいていた。今回資料を見ると、選挙管理委員会事務局が27.3%と足を引っ張っていることが分かった。これまで、学校についての情報はあったが選挙管理委員会事務局や都市づくり部、経済観光部、実績なしの監査事務局の情報を見たことがないので確認させてほしい。選挙管理委員会事務局がこんなに低いというのは、何が含まれているのか。監査事務局は、実績なしというのはどういうことなのか。確認させてほしい。参考資料には書かれていないので説明が欲しい。

事務局：まず、選挙管理委員会事務局について、詳細について把握できていないので確認させていただく。監査事務局については、もともと物品の購入が少ないことに加え、グリーン購入対象物品の購入がなかったと考えられる。

事務局：選挙管理委員会については、確認して次回以降報告したいと思う。監査事務局は先程説明があった通りである。また、総務部では庁内印刷を行っていて紙が多くなっている。通常はグリーン購入対象の紙を利用しているが、他部署から色付きの紙での印刷依頼がかなり多いと聞いている。色付きの紙は適用外なので、達成率が低くなっていると確認が取れている。経済観光部と都市づくり部については詳細が確認できていない。順位が低い所については、次回改めて報告させていただきたい。

土肥委員：寄与度を教えて欲しい。寄与度の付け方が、購入品数なのか予算なのかかわからないが、どれだけ購入してどれだけ全体の数値に影響しているのか。

事務局：こちらは契約の件数で把握している。学校の全体の中での件数の割合については、確認してお答えする。

土肥委員：学校の中の品目の件数ではなく、会計課ではどれくらいの契約数のうち100%なのかというように、分けたい。どれくらいこれが問題なのか。

事務局：部だといくつかの課があり、母数にばらつきがあるのは確認できていない。同じパーセントでも問題がある等、その辺の集計をして次回報告させていただく。

土肥委員：4ページの下のところ、排出係数の低い事業者から電気を買うようにしたと

いうのは、去年からやっているの新しい取組みではないと思う。今まで適応していなかったりできていなかった部署がそうしたなら、そう書いた方がいい。書き方を変えないと、去年と一緒だと思われる。

事務局：昨年以前の取組みでは、一定の基準よりも排出係数の低い事業者を選定し契約していたが、2022年度は、鶴見川クリーンセンターで使用する電力は町田市バイオエネルギーセンターで発電した排出係数の低い電力に特化して供給を受けていることから、それ以前の取組みとは性質が異なるという点である。記載が不十分な点があったかもしれないが、新しい取組みということで紹介させていただいている。

土肥委員：購入業者の基準を厳しくした、ではなく、自前で発電したということか。

事務局：地産地消という言い方をしているが、再生可能エネルギーについて市内の清掃工場で発電した電力を活用するという一つの取組みになる。

土肥委員：排出係数の低い事業者から買うことをこれからチャレンジすると書かれているが、自前で発電することにしたとは、全く違うことをおっしゃっている。

事務局：2022年度の取組みは、清掃工場で発電した電力を活用したことであると理解している。今後については、これから検討していくが、排出係数をより低い設定にしていくことを踏まえて、これは書かせていただいていた。

土肥委員：より排出係数の低い所から買うように変えたいということで、理解した。

松波委員：私から3点ある。1点目に、第5次環境配慮行動計画ができたので、基準を変えるということだが、今までとの継続性というのがあるので今年度だけ前の基準のものを参考データとして付けていただけると評価がやりやすくなると思う。基準が変わったエネルギーのところだけで構わない。2点目だが、7ページのエコオフィス活動の評価点に関して、グリーン購入が3.6と非常に低くなっている。これはエコオフィスサポーターの認識の違いでこうなってしまうということだが、去年に比べて相当下がっている理由は何かを知りたい。3点目が、8ページのエコオフィス活動だが、昼休み時の照明消灯の実施が毎年非常に低い状態になっている。それについては、エコオフィスサポーターの変更によりブレが生じているということだが、それにしても低すぎる。この点に関しても事情が分かれば教えていただきたい。

事務局：1点目の継続性について。エネルギーについては、前の基準のものを参考データとして提供したいと考えている。2点目のエコオフィスのグリーン購入については、各部署の担当ごとの集計結果なので、詳細な理由までは把握が難しいと考えている。3点目の昼休みについては、周知の内容について同じような共通認識を持てるような周知の仕方が不十分であったと、事務局として反省しているところもある。今後は理解が統一できるようにしていきたい

と考えている。

斎藤委員：対応状況や対応の方向性に対する回答の書き方について、短くてもかまわないので、どういった評価意見があり、それを解析した結果考えられることやわかったこと、それに対してどう対応するのかを入れていただくと理路整然としてわかりやすい。全般的にそういう形で書いていただきたい。

事務局：参考にする。

松波委員：1点質問がある。今日出た意見の中で新たなデータが提出されることになると思うが、10月20日までに評価しなければならぬので1週間くらい前までには新規データをお送りいただきたいと思うが、大丈夫か。

事務局：一次評価に答えていただけるように、なるべく速やかに確認して資料をお送りしたいと思う。

松波委員：二次評価はまだ先にあるが、早いうちに正確なデータがあった方が委員の皆様も評価しやすいと思うので、お願いしたい。

土肥委員：松波先生が質問していた7ページのエコオフィスの評価点のグリーン購入のところだが、松波先生の疑問に答えていたのか？

事務局：先程回答させていただいたのは、各部署の担当ごとの評価の集積で3.6となっていたので、詳細な理由がなかなか把握しにくいと考えている。ただ、もう一度確認はさせていただく。

7ページのグリーン購入が低くなった話と、8ページの昼休みの電気を消す話だが、先ほど説明した通り、つける人間の意識という理由だけだとなかなか答えになっていないと思われる。グリーン購入は100%を目指すことを各職員が意識すれば達成率は自ずと上がり、安定すると思う。昼休みの消灯も、調査をかけるときにこちらが明確にして知らせる必要がある。その2つを行うことにより値も安定すると思っている。今のところは、意識の問題としか言えないが、各職員にはつきり周知することによって数値が上がるのではないかと考えている。そのようなことを取り組んでいきたい。

連絡事項

-本日のまとめと今後の外部評価委員会の流れについて、事務局から説明した。

松波委員：最後に一つ提案がある。今回、2022年度の実績報告や意見交換があったが、町田市環境配慮活動を現地で確認することも、評価を行う上で非常に参考になるものと考えている。コロナ前までは、達成率の低い部署に関して

現地を確認してその様子を評価してきた。今回も現地確認をしたいと思う。皆様のご都合がよろしければ、2023年の10月26日の午後1時頃から5時頃まで、生ごみのバイオガス化施設・ごみ焼却施設である町田市バイオエネルギーセンターの現地調査を行いたいと思う。半数以上の委員がご参加いただけるようであれば、実施させていただきたいと思うが、皆様ご都合を聞かせていただきたい。ご都合の付く方は挙手、オンラインの方は挙手ボタンを押していただきたい。

(挙手4名)

松波委員：半数はいつているか。

事務局：今日欠席の委員の方と途中退席した委員の方に確認させていただく。委員長から半数というお話があったが、参加者がいることから、開催するというこ
とで調整させていただく。改めて連絡させていただく。

松波委員：詳細については、事務局からメールで連絡していただく。

以上で、本日の委員会は終了としたい。お疲れ様でした。

以上